

**製品名: NCoA3 (リン酸化 Ser857) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05815**

研究使用のみ

## 概要

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB   |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | リン酸化   |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

## 応用

|      |                 |
|------|-----------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000 |
| 分子量  | 157kDa          |

## 抗原情報

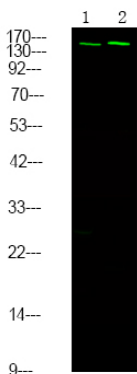
|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | NCOA3  |
| 別名           | Nuclear receptor coactivator 3 (NCoA-3) (EC 2.3.1.48) (ACTR) (Amplified in breast cancer 1 protein) (AIB-1) (CBP-interacting protein) (pCIP) (Class E basic helix-loop-helix protein 42) (bHLHe42) (Receptor-associated coactivator 3) (RAC-3) (Steroid receptor coactivator protein 3) (SRC-3) (Thyroid hormone receptor activator molecule 1) (TRAM-1) |
| 遺伝子 ID       | 8202.0   |
| SwissProt ID | Q9Y6Q9   |
| 免疫原          | ヒト NCoA3 (リン酸化 Ser857) 由来の合成ペプチド   |

## 背景

代替産物:追加のアイソフォームが存在するようです。触媒活性:アセチル CoA + ヒストン = CoA + アセチルヒストン。ドメイン:3つの Leu-Xaa-Xaa-Leu-Leu (LXXLL) モチーフが含まれます。モチーフ 1 と 2 は核内受容体との結合に必須であり、RID ドメイン (受容体相互作用ドメイン) を構成します。酵素調節:核内受容体と NF-κB 経路に対するコアクチベーター活性は、それぞれさまざまなホルモンと TNF サイトカインによって増強されます。TNF 刺激はおそらくリン酸化を増強し、それが今度はコアクチベーター機能を活性化します。対照的に、CREBBP によるアセチル化は、核内受容体との結合を破壊することによって、標的遺伝子のコアクチベーターを抑制するようです。機能:核内受容体に直接結合し、ホルモン依存的に転写活性を刺激する核内受容体コアクチベーター。多サブユニット共活性化因子複合体の形成において中心的な役割を果たし、クロマチンのリモデリングを介して作用すると考えられています。ステロイド (GR および ER)、レチノイド (RAR および RXR)、甲状腺ホルモン (TR)、ビタミン D3 (VDR)、プロスタノイド (PPAR) など、様々な核内受容体の共活性化に関与しています。ヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性を示します。また、NFKB1 サブユニットとの相互作用を介して NF-κB 経路の共活性化にも関与しています。その他: NCOA3 は、乳がんおよび卵巣がんにおいて頻りに増幅または過剰発現しています。多型: ポリ Gln 領域の長さは正常集団において多型性があります。PTM: CREBBP によってアセチル化されます。RID ドメインはアセチル化され、核内受容体との相互作用を阻害し、その機能を調節する。PTM: CARM1 によってメチル化される。PTM: IKK 複合体によってリン酸化され、その機能を調節する。類似性: SRC/p160 核内受容体共活性化因子ファミリーに属する。類似性: 1つの基本ヘリックス-ループ-ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。類似性: 1つの PAS (PER-ARNT-SIM) ドメインを含む。細胞内局在: 主に細胞質内に存在し、核内には弱く存在する。TNF 活性化とそれに続くリン酸化により、細胞質から核へ移行する。サブユニット: CARM1 と相互作用する (類似性による)。NCOA2、IKKA、IKKB、IKBKG、およびヒストンアセチルトランスフェラーゼタンパク質 CREBBP を含む複合体として存在する。CASP8AP2、NR3C1、PCAF と相互作用する。ATAD2 と相互作用し、この相互作用はエストロゲンによって増強される。組織特異性: 広く発現する。心臓、骨格筋、脾臓、胎盤で高い発現を示す。脳では低い発現を示し、肺、肝臓、腎臓では非常に低い発現を示す。

## 研究分野

## 画像データ



MCF-7 細胞 1 個、LPS 100 ng/mL 30 分処理 2 個を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。